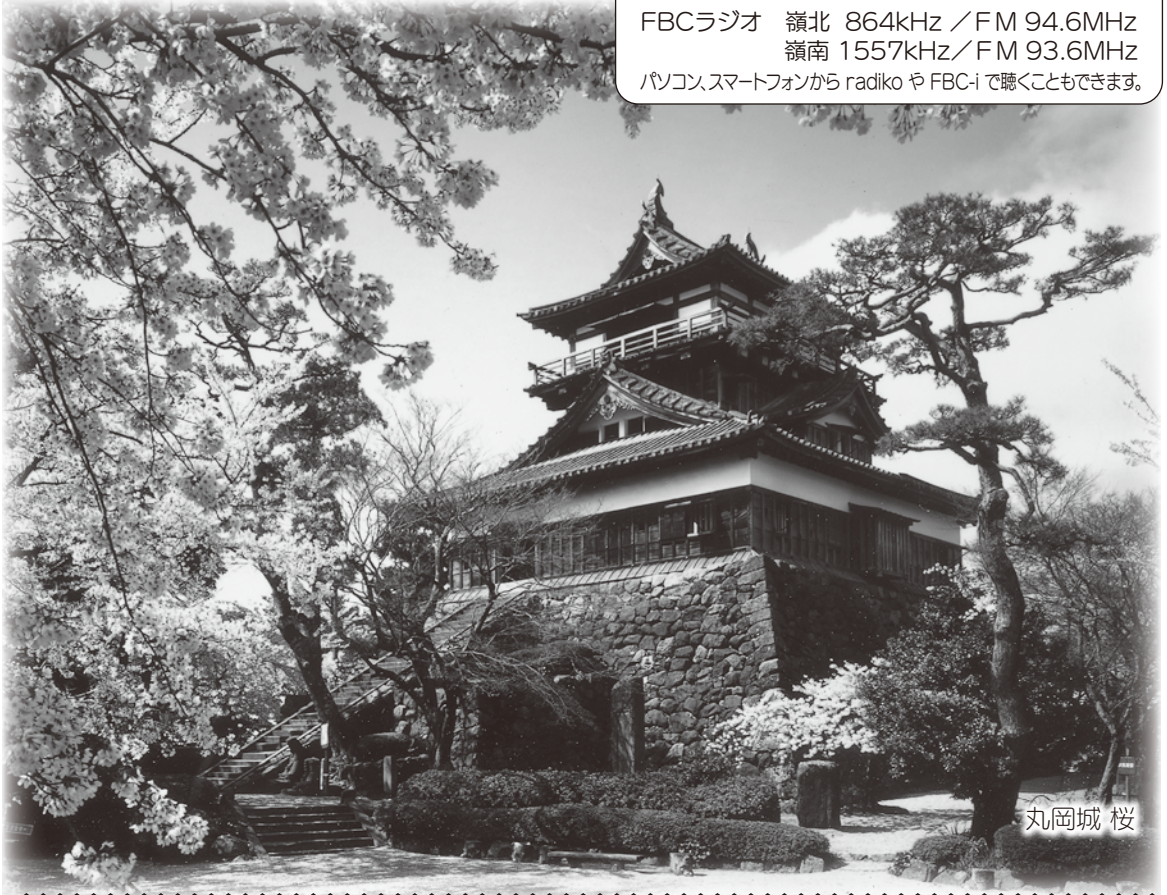


# いきいきライフ

## ラジオ講座テキスト

毎週日曜日 6:30～ 7:00 放送  
 毎週土曜日 17:15～17:45 再放送  
 FBCラジオ 嶺北 864kHz / FM 94.6MHz  
 嶺南 1557kHz / FM 93.6MHz  
 パソコン・スマートフォンから radiko や FBC-i で聴くこともできます。



丸岡城 桜

令和五年四月

もくじ

- 四月二日放送（第一回）  
 人の心を動かす  
 言葉の影響力と伝え方……………2  
 一般社団法人日本メンタルアップ支援機構  
 講師・カウンセラー 杉山 修
- 四月九日放送（第二回）  
 ビリヤードで生涯いざいざ……………4  
 福井ホケットビリヤードクラブ 名誉会員  
 ビリヤードCAROOM 代表  
 道川 浩
- 四月十六日放送（第三回）  
 学びのビックバン  
 〓 高校生の鯖缶開発物語……………6  
 福井県立若狭高等学校 教諭  
 小坂 康之
- 四月二十三日放送（第四回）  
 新説 金ヶ崎の退き口……………8  
 若狭国吉城歴史資料館 館長 大野 康弘
- 四月三十日放送（第五回）  
 福井のまちに居場所と舞台を……………11  
 〓 志々木 孝 先生のマニッシュァー 土田 佳奈
- 感想文のコーナー……………13
- 文芸欄……………16

## ■四月二日放送（第一回）

### 人の心を動かす言葉の影響力と伝え方

一般社団法人日本メンタルアップ支援機構

講師・カウンセラー

杉山 修

#### 1 言葉の影響力を知る

日常で使っている「言葉」の影響力を意識していますか？言葉は自分の感情と相手の感情に影響を与えます。例えば「梅干し」という言葉を聞いて、頭の中では「酸っぱい梅干し」をイメージし、そして体の反応として「口の中に唾液が出る」つまり、感情に影響を与えて体の反応が起こります。言葉は自分と相手の感情に影響を与えます。

言葉が感情に影響を与えることを理解できると、私たちが日常生活で使っている言葉の選択を意識することで、より良い人間関係を築くことができます。自分の一言で相手と良い関係を築くこともでき、また余計な一言で相手を不快にさせてしまうこともあります。より良い人間関係は言葉の選択からスタートします。



さらに気持ちいい一日を過ごすため、幸せな気分を一日を過ごすために毎朝、ポジティブな言葉を声に出して言ってみてください。私は毎朝、「今日も最高な一日を過ごそう」「今日も

一日笑顔で過ごそう」と言葉に出しています。声に出して耳で聞き、脳に「最高」「笑顔」をインプットしています。是非試してみてください。気持ちが変わり充実した一日に繋がります。

#### 2 言葉の捉え方、解釈の仕方

人は一人ひとりの経験や体験に基づき、言葉の意味を理解します。つまり、言葉の捉え方、解釈の仕方は人それぞれ違うということです。例えば、「旅行に行って楽しかった」と聞いた場合、「久しぶりの旅行が楽しかった」「旅行先での観光が楽しかった」「一緒にいった相手との旅行が楽しかった」など、「旅行が楽しい」という背景には様々な捉え方ができます。それは聞いた人の経験や体験に基づいて「言葉」を理解してしまうこと、さらには言葉の意味を書き換えてしまうことになります。コミュニケーションにおいて誤解や勘違いが起きる一つの要因としては、抽象化された表面的な言葉だけを捉えて、具体的な内容の理解が不十分なまま、「わかったつもり」になってしまうことです。

コミュニケーションエラーを誘発しないためには、伝える側は「具体的に、事実を、シンプルに、丁寧に」伝えることを意識して誤解のないコミュニケーションを意識してください。また聞く側は抽象化された言葉だけ捉えて「わかったつもり」をせずに、質問して相手の言葉の理解をより深めることを心がけましょう。例えば、先ほどの事例をもとに紹介します。「旅行に行って楽しかった」と聞いた場合、「どこに行って楽しかったの？」「誰と行って楽しかったの？」「どんな所に行って楽しかったの？」など、興味をも

って相手の話に耳を傾け、質問して言葉を具体的に掘り下げることで、相手の伝えたいことへの理解をより深めることができます。

### 3 人の心を動かす影響力

人の心を動かすためには自分自身にフォーカスすることです。人の心を動かすのはテクニクではなく、人の言うことを聞いて動きたくなる「感情のメカニズム」です。それはどのような人でしょうか。正直な人、人の陰口や悪口を言わない人、思いやりがある人、約束を守る人、言っていることと行動が変わらない人などが挙げられます。人の心を動かすには「自分自身の日常の姿」を整えることです。具体的には、自分の態度、行動、発言の一貫性を持たせることです。これを「一貫性の法則」と言います。

自分自身の日常での振る舞いや言動は、自分が思っている以上に自身の信頼、人望に影響を与えます。人の心を動かすために一貫性ある言動を心がけましょう。

### 4 人の心を動かす伝え方

言葉は自分と相手の感情に影響を与え、また言葉は一人ひとりの経験や体験から捉え方や解釈の仕方が違うことをお伝えしました。さらには一貫性を持った言動をすることで影響力を与えます。

人の心を動かす伝え方は、相手の欲求を満たすことです。そのキーワードは「安心感」と「自己重要感」を満たすような接し方、伝え方を心がけることです。なぜなら、「人は感情的な生き物」だからです。

では、具体的にはどのように伝えるのか。安心感は「相手の発言に否定しない」ことです。人は否定されると心を閉ざします。否定せずには言葉を受けとめて安心感を与えます。さらに「自己重要感」とは「自分は価値ある存在である」という欲求です。相手の欲求を満たす伝え方として「絶対に否定しない」ことです。否定的な言葉として「それは違う」「それは無理」「でも・だって・しかし」などの逆説の言葉を使わないことです。

一人の人として相手の発言も尊重し、安心感と自己重要感を満たす言葉を伝えましょう。

これから「言葉」を大切にして、より良い関係性を築いていきましょう。

#### 講師略歴……杉山 修 (ぎやま おさむ)

1964年生まれ。神奈川県厚木市在住。大手メーカー入社後、半導体製造部門に従事。製造課長時代に部下のメンタル不調をきっかけに産業カウンセラーの資格を取得する。2013年に人事部門に異動。社内EAP的立場で社員サポートを遂行し、6年間で延べ3,600人のカウンセリングを行う。

また、2016年厚生労働省主催の「ブッドキャリア企業アワード2016」において大賞を受賞する。2019年に独立し、企業研修講師、カウンセラー、コーチを生業としている。

## ■四月九日放送 (第二回)

### ビリヤードで生涯いきいき

揮桿ポケットビリヤードクラブ 名誉会長  
 ビリヤードC.A.R.R.O.M 代表 道川 浩

1から15の番号が入った球と白い球、そして「キュー」と呼ばれる棒を使って楽しむスポーツ「ビリヤード」。映画やドラマにもよく登場し、60代以上の方ですと昭和のビリヤードブームでプレーしていた方たちも多いのではないのでしょうか。

ビリヤードの基本的なルールは、プレーヤーたちが白い球「手球(てだま)」をついて、決められた番号の球に当ててポケットに落としていくものです。有名なゲームとしては、1から9番までの球を順番に当てて落とすしていく「9ボール」などがあります。基本のフォームと手球のつき方を覚えれば、老若男女問わず誰もがほぼ全てのゲームをプレーできるスポーツです。今回は、そんなビリヤードの歴史や魅力についてご紹介します。



#### 【ビリヤードの歴史】

ビリヤードは、今では世界で

人気のスポーツですが、その起源ははっきりと分かっていません。紀元前のギリシャなどで、球を棒でつくような遊びがあったようですが、イギリスやフランスなどが発祥国という説もあるようです。日本へは江戸時代頃に伝わったとされています。一般的にビリヤードが広まり始めたのは昭和に入ってからですが、その頃のビリヤード場といえば、大人たちが集まる少し危ない場所というイメージが先行していました。しかし、1986年に「ハスラー2」というアメリカ映画が世界で大ヒットを記録した影響で、世界中でビリヤードブームが起きました。日本でも全国各地でビリヤード場が増え始め、県内でも全域で30店舗ほど開業し、私自身もこの頃自分の店をオープンしています。

#### 【老若男女問わず楽しめる魅力】

ビリヤードを始めたばかりの頃は、打った球が狙い通りに入ったときの感覚が虜になると思います。遊びで楽しむときは、仲間たちとワイワイ話しながらゆったりとゲームすることができるようにもビリヤードの魅力のひとつ。また競技としてプレーするようになると大会に出た際には、試合中、手に汗握るようなプレッシャーを感じながら、その中でも実力を発揮できたときに一層の喜びを味わうことができます。

自分のレベルに合わせて様々な楽しみ方ができるビリヤードは、日本では文部科学省が推奨する「生涯スポーツ」

なっています。球を1つ入れただけでは勝利に結びつかないのがビリヤード。常に先を考えながら球とキューを動かすという「頭と体の両方を使うスポーツ」なので、認知症や老化防止に役に立つと言われていています。

また、体の小さな子どもの頃から遊べるので、中・高生になり親離れた子どもたちとのコミュニケーションツールとして、親子の対話に用いている方もいます。私の店にも3世代の家族で来るお客さんもいます。ビリヤード専門店という特殊な空間の中では、歳の差や男女の差に関係なく、ビリヤードというスポーツを同じ土俵で公平に楽しむことができますのです。

【人生を豊かにするビリヤード】

遊びのビリヤードから、競技のビリヤードに進むと、日本ビリヤード協会が開催する公式トーナメントなどに出場するようになります。各地で開催される大会には、全国からプレーヤーたちが集まります。その会場で県外のプレーヤーたちと交流し、交友関係が増え、生涯の友人ができることもあります。私も、かつて出場した大会で仲良くなったプレーヤーたちの県に遊びにいったり、今でも連絡を取り合ったりしています。全国に友人ができる、その地域の人たちの県民性を理解することができ、それが自分自身の経験にもなり、人生をより楽しむことにつながります。年を重ねてもいきいきと続けられる・世代を超えて楽しむ

ことができる・そして生涯の友人と幅広い経験を得ることができるとは、多くの人の人生を豊かにするスポーツだと思います。



40代の頃



ビリヤード台



球



キュー

講師略歴……道川 浩（みちかわ ひろし）

1949年生まれ。19歳でビリヤードを始め、21歳で「全日本都道府県対抗ポケットビリヤード選手権大会」に団体戦メンバーとして初出場（1970年）。以降アマチュアとして様々な大会に出場し、タイトルを獲得。1995年「内閣総理大臣杯」で全国初優勝。2015年「シニアオープン」優勝など。1988年に「ビリヤード場」で「ビリヤードCARROM」をオープン。現在は代表を務める。これまで「北陸アマチュアビリヤード連盟」会長、「全国アマチュアポケットビリヤード連盟」常任理事、「福井県ビリヤード協会」の初代会長を務め、現在は「福井ポケットビリヤードクラブ」の名譽会員。

## ■四月十六日放送（第三回）

### 学びのビックバン ～高校生の鯖缶開発物語～

福井県立若狭高等学校 教諭 小坂 康 之

1 世界初高校生の開発した「鯖缶」が国際宇宙ステーションへ  
 凄まじい閃光と轟音を響かせながら種子島宇宙センター  
 からH2Bロケットが打ち上がった。「生徒の思いと地域  
 の希望が詰まったサバ缶」が宇宙に飛んでいった。重力に  
 逆らいながら、最後には宇宙に吸い込まれるように消えた。  
 令和2年12月、「シューシー」。「味がしつかりしてみいてお  
 いしい。」野口宇宙飛行士の発信するYouTube第一号  
 での食レポ、ついに高校生が開発製造した鯖缶が宇宙で喫  
 食されたのだ。小浜水産高校から始まり14年続いた夢が実  
 現した瞬間だった。きっかけは何気ない生徒の一言からで  
 あった。平成18年、地域の食品衛生の発展と人材育成のた  
 め高校の製造工場でHACCP（ハサップ）を導入した。ソ  
 フト面の工夫で課題をカバーし、低価格の設備改修でHA  
 CCPを導入できた。従業員教  
 育として生徒の授業を行って  
 いた時のことである。「先生、HA  
 CCPは、NASAが開発した  
 のだったら、このサバ缶宇宙食  
 に飛ばせるんちゃう？」「面白い、



やってみよう。」

しかし、容易には進まなかった。ある年は脱線して、サ  
 バ缶ではなく流行した「宇宙生キャラメル」を開発してし  
 まった。ある年は誰も引き継がず、進まなかった。何百ペ  
 ージにも及ぶJAXAへの申請書類を作成、保存検査や粘  
 度や味を改善する研究を行った。中でも生徒たちは宇宙飛  
 行士の求める「濃い味付け」や「家庭的な味」という難題に  
 応えるための様々な仮説を設定し、取り組んだ。2018  
 年11月1日、ついに宇宙日本食として認証を得て、若田宇  
 宙飛行士から「鯖街道、届け国際宇宙ステーション」と  
 祝福をいただいた。

## 2 地域コミュニティと模索した教育目標

宇宙鯖缶を高校生が開発したというと高校生だけが頑張  
 ったというアオハル的な物語を想像するが、鯖缶開発の裏  
 側には、教育の大改革の軌跡がある。

本校は明治28年、日本で最初に設置された水産高校であ  
 り、地域への人材の輩出と水産技術の教授を目的に設置さ  
 れた。明治29年には缶詰を製造、民間企業に並んで水産博  
 覧会に出展した記録が残る。「ひびきを突き合わせて探究」と  
 という言葉が残っているように生徒を水産の現場に連れ出し、  
 未利用資源の利用や漁業の新技术の講習など漁村振興を通  
 じて学びを深めていた。

しかし、昨今、全国各地で高校生が探究的な学習として  
 地域活性化が盛んに行われ、評価されている中で、元祖探  
 究的な学習を実施している水産海洋系高校の現状は、実は、

非常に厳しかった。慢性的な定員割れ、教員不足が続き、全国で統廃合が相次いでいる。本校においても平成25年に普通科進学校である若狭高等学校と統合し若狭高等学校海洋科学科となった。

しかし、統廃合を機に組織された地域のステークホルダーを中心とする地域コミュニティの形成が大きな転機となった。ステークホルダーとは、地域の問題を解決する「課題研究」の授業の中でつながりを築いてきた漁師、水産加工業者、流通業者、大学研究者、保護者、NPO、生徒本人である。「知識、技術とかも大切やけど、それはうちに來たら教えたるし、それよりも興味関心やで先生」「保護者としては進学の選択肢が少ないというのは抵抗がある」「やっぱり獲る。食べるは水産の喜びではないか」「水産業界、そして肝心の生徒や保護者の多様な意見に正面から向き合った。その後、育成すべき生徒の目標を明確にし、評価方法の設定、カリキュラムを作成した。

統合当時、進学校である若狭高校でも、受験のための知識と技術の詰め込みが行われており、地域の声を反映し、座学やフィールド学習で興味関心や思考力の育成などを目標とした授業内容は、異質なものであった。

しかし、設置から10年、当然ながら時代に対応したカリキュラムを持つ海洋科学科は、社会から大きく評価され、卒業生の進学、就職も優れた結果を残した。ステークホルダーによる目標設定も定期的に実施しており、現在の目標は、「幸せ(Well-being)」である。幸せになるための資質・能力を明らかにし、海洋教育でどう育てるの

か議論している。

少し話題が離れたように思えるが、これが宇宙日本食開発を成功させた肝心な部分である。生徒が、宇宙日本食の研究を自分ごととして14年間もの間、後輩が先輩から引き継ぎ、高い衛生基準をクリアできたのは、生徒の努力と何よりも楽しみながら主体的に学ぶという姿勢である。そしてその土台は、「生徒の主体性と興味関心」を支援することを目標とした揺るぎないステークホルダーとの目標設定である。大人だけが取り組んでいたら缶詰はもっと早く完成していたかもしれないが、生徒の学びはどっとなっていたであらう。

それら生徒主体の課題研究を中心とした授業が徐々に認められる中で、宇宙鯖缶の研究は一気に進展し、見る見るうちにまるでビックバンのようにその学びが大きく膨れ上がり、現実的な打ち上げの可能性が見えていった。

講師略歴……小坂 康之(こさか やすゆき)

神奈川県出身。東京海洋大学卒業後、福井県立学校教員として福井県立若狭高等学校に着任。福井県立大学大学院生物資源学研究所海洋生物資源学専攻入学、同研究科修了。「楽しいから学ぶんだ!」をモットーに海の教育、探究的な学習に取り組み、地域と連携した海の再生活動や地域食材を利用した商品開発など指導。サバのへしこの伝統的製造法を科学的に分析、業者にへしこの製造指導。サバの缶詰の宇宙食としてJAXA宇宙日本食認証獲得に向けて、生徒とともに研究、製造(R2.11野口宇宙飛行士が国際宇宙ステーションで食用し賞賛)。

「授業名人」(福井県教委)、「文部科学省優秀教職員」(文部科学省)、「優秀教員表彰」(福井県教委)、小浜市奨励賞を受賞。

【著書】「缶詰の缶づめ、宇宙へいく」小坂康之・林公代(イースト・プレス)2022.1「宇宙食になったサバ缶」小坂康之・別司芳子(小学館)2022.6

■四月二十三日放送(第四回)

新説 金ヶ崎の退き口

若狭国吉城歴史資料館 館長 大野 康 弘

一、国吉城とは？

戦国時代、若狭国と越前国の国境を守る「境目の城」であった国吉城は、美浜町東部の佐柿地区に残る山城で、若狭国守護大名武田氏の重臣、粟屋越中守が城主でした。

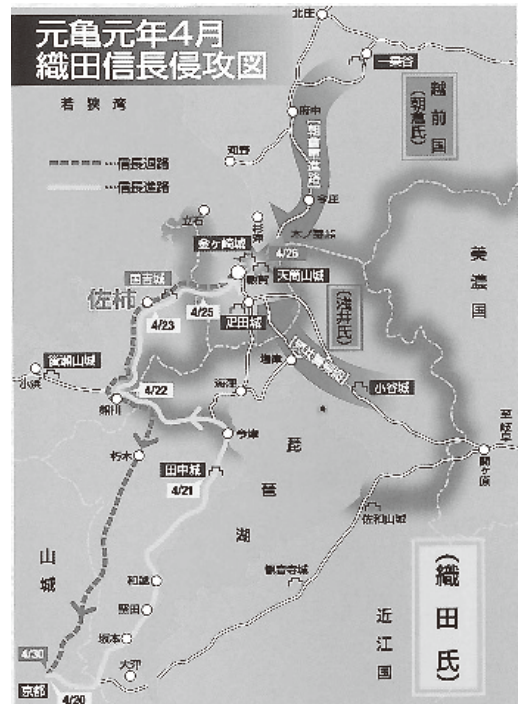
永禄六年(一五六三)、越前朝倉氏の侵攻を粟屋勢が城に立て籠もって防いだのを皮切りに、朝倉氏が滅亡する天正元年(一五七三)まで、ほぼ毎年襲来する朝倉勢を撃退し、「難攻不落」を誇りました。この戦いの様子は、粟屋勢に参加した地侍、田辺半太夫がまとめた体験談が写本され、軍記『国吉籠城記』諸本として世に広まりました。

二、信長の朝倉攻め

四五二年前、元龜元年(一五七〇)の今日四月二十三日、越前朝倉氏征伐のため、織田信長率いる三万の軍勢が国吉城に到着しました。この軍には、後の



天筒山城跡から金ヶ崎城跡を望む



元龜元年織田信長侵攻図

豊臣秀吉となる木下藤吉郎や、今年の大河ドラマ『どうする家康』の主人公、徳川家康も同行したと伝わります。

二十五日、織田勢は敦賀に攻め入ると、天筒山城を一日で攻め落とす。翌日には金ヶ崎城が戦わずに降





国吉城址

伏開城しました。

その後、信長の妹婿である北近江の浅井長政の逆心が知らされると、信長は殿軍を秀吉に命じ、少数の供廻りで京都に撤退しました。秀吉は、朝倉軍の激しい追撃をくぐり抜けて退却を果たします。秀吉の生涯最大の武功として、『太閤記』

は、最初に敦賀攻めの拠点とした国吉城が最適でした。つまり、織田勢の「退き口」は、敦賀から国吉城までのわずか十キロ程を逃げてくればよかったです。

そして、徳川家康の動向についても様々な説があります。

#### 四、町に残る徳川家康ゆかりの地

徳川家康が越前攻めに参加したという伝承は、『三河物語』や『東遷基業』など、江戸時代以降に家康の業績をまとめた史料に限られ、同時代の史料(一次史料)には見出しません。しかし、撤退戦における家康軍の動向は美浜町内に数々伝わり、「来なかった」とも言い切れないのです。

#### (一) 家康の陣所

織田勢に同行した

家康が敷いた陣の場所ですが、美浜町の西部、「別所」に陣を敷いたと伝わります。一方、「信長らとは」別の場所」と解釈するものもあります。筆者の解釈、捉え方で全く別の意味が生じてしまい、別所説も可能性の一

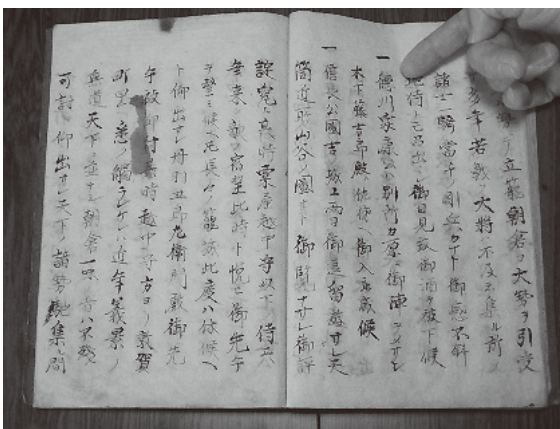
でも広く知られる場面です。

#### 三、新説「金ヶ崎の退き口」

以上が、通説の「金ヶ崎の退き口」ですが、近年の調査研究よりその実像が解明しつつあります。

まず、殿軍を担った軍勢は秀吉隊だけではなく、摂津守護池田勝正や、幕府奉公衆の明智光秀ら複数の隊が担ったとされます(「一色藤長書状」『武家雲箋』)。

また、織田勢が入城した金ヶ崎城は、南北朝期の城をほぼ改修せずに利用した可能性が指摘されており(金ヶ崎城・天筒山城「新視点」朝倉氏の山城 資料集「二〇二二」)、迎撃に不向きだったと考えられます。追撃軍を迎え撃つに



『国吉籠城記』の徳川家康登場の行

つに留まらざるを得ません。

(二) 土井山砦跡

土井山砦は、耳平野西端の独立丘陵上に位置します。丘陵の西側は家康が陣を取ったという別所の原野でした。退却してきた秀吉は国吉城に、徳川家康は土井山砦に一時立て籠もったという伝承があります。

(三) 家康、秀吉と囲碁に興じる

国吉城本丸に、家康と秀吉が囲碁に興じた大石があったといわれました。近年の発掘調査で、本丸の北西虎口跡から平らかな大石が出土しました。この石は、粟屋氏の後の城主、秀吉重臣の木村常陸介定光が城を改修した際に置いた「鏡石」が倒れたものですが、これを見た後の世の人々によって広がった想像とみられます。

(四) 徳川軍、黒浜で朝倉の追軍と戦つ

美浜町に合併する前、山東村では『東遷基業』の記述と現場で出土した小刀などを紹介し、家康が撤退してきた折



久々子の徳川家康陣跡碑  
(『目で見える美浜の文化財』1980より)

佐田黒浜で朝倉軍の追撃で絶滅寸前の木下隊を救い、秀吉に厚く感謝されたと、学校の授業で教えていました。

(五) 徳川家康陣跡(松原・久々子)

『東遷基業』によれば、佐田黒浜で木下隊を救った後、後退して陣を張った場所とされます。かつては木碑がありました。現在は失われています。

五、終わりに

今回ご紹介したのは、これまで知られてきた通説とは異なる「新説」ともいえる退き口です。『太閤記』では秀吉の活躍として、『東遷基業』では東照神君(家康)の功績として評価される一方、朝倉方にしても勝ち戦として記録され、切り口や見方よって解釈も大きく変わります。

「金ヶ崎の退き口」の実態解明には、今後も様々な史資料の研究や調査が必要でしょう。

講師略歴……大野 康弘(おおの やすひろ)

昭和45年(1970) 静岡県生まれ。別府大学文学部卒業。別府大学研究生課程修了。

専門…日本考古学、城郭史(中近世城郭の研究)。

職歴…大分市教育委員会文化財課を経て、平成13年(2001)から美浜町教育委員会事務局に勤務、現在に至る。

現在…美浜町教育委員会事務局 参事

若狭国吉城歴史資料館 館長(学芸員)

## ■四月三十日放送 (第五回)

### 福井のまちに居場所と舞台を

ふくまち大学  
まちのマネージャー 土田 佳奈

ふくまち大学とは？

ふくまち大学とは、福井駅前を中心とした「まち」を舞台にひろがってゆく学びの場です。まちなか全体をキャンパスとして、様々な場所を活用しながら講座を展開しています。まちで活動している人たちが「せんせい」となり、授業やゼミ、部活動・サークルなどを開催します。年齢や性別、肩書きにかかわらず、どなたでも気軽に学び合えることができます。

設立の背景

昨年、福井県、福井市、福井商工会議所などで構成される県都にぎわい創生協議会において、2040年頃を目標

とする長期構想である「県都ブランドデザイン」が公開されました。県都ブランドデザインでは、誰もが主役の「楽しさあふれる県都」を目指しています。多様な人々が交流し共創する「場」をまちなか



につくり、新たな「たのしみ」「くらし」「しごと」を生み出し、まち全体に広げていくことを戦略に掲げています。

ふくまち大学事業は、県都ブランドデザインの具体的な行動の一環として、2022年度に先行的に取り組みがスタートしました。福井のまちなかを変えていく第一歩として「開かれた学びの場」をつくり、県都ブランドデザインの推進にもつなげていくことを目指します。

ふくまち大学の特徴

ふくまち大学の学びの理念は「引き出す」です。教育(Education)の語源「エデュカール」(ラテン語)には、「引き出す」という意味があります。教育の語源に立ち戻り、一人ひとりの内側にある大切なことを「引き出す」きっかけを共有できる学びの場を目指しています。

これは、植物を育てるとよく似ています。植物の種には生きるのに必要な情報と生命力が詰まっています。土にまかれた種は、最適な環境が整うと発芽し、環境に適応するように自分で身体の向きを変えながら成長し、花を咲かせ、実を結びます。植物たちは、芽の出し方や花の咲かせ方を人から教わったり、自分の花と他の花を比べたりすることはありません。それぞれ、自分の花を咲かせるために必要な要素を持って生まれてきています。私たちにできることは、種が元々持っているものを最大限に「引き出す」ための環境をつくることです。

ふくまち大学では「ひろく」「つながる」「できる」をキーワードに、一人ひとりの内側にある好きなことや得意なことを

と、主体性や大事な価値観などを引き出していきます。

自分の内側をひらいて、一歩踏み出してみる。

目に映る新しい景色や、出会った人たちとつながってみる。  
ちいさなできるを紡いでいく。

そのくりかえしの中で、あなた自身の大げなことが少しずつ引き出されていく。そんな「学び」の景色を福井のまちなかに描きます。

2022年度は、福井市中央公園で夜空の下映画を観る「まちの文化学部 野外映画上映学科」や、福井駅周辺の「ワーキングスペースで持ち寄った本について語り合う」まちの学び場をつくろうゼミ」、福井県庁の屋上で打楽器のセッションを楽しむ「まちのドラムサークル」など、まちなかを舞台に様々な講座を開催しました。今年度も、まちにある資源を活かしながら、新たな使い方を提案するとともに、福井で暮らす人たちがまちを楽しみ、つながり、活躍するための「居場所と舞台」をつくり出します。

### 出会は人生を豊かにする

私は、まちづくり活動をとおして出会った方とご縁で、福井駅周辺の旅人向けの宿、ゲストハウスで働いた経験があります。ゲストハウスには、全国各地から様々な人たちが集まっています。日本一周や世界中を旅する人、海外から来たけんだまの達人、トライアスロンや体操の選手、考古学や鬼ごっこ、宇宙エレベーターの研究者など・・・普通に暮らしていたら出会えないような人たちとお話する機会をいただき、知らない世界にワクワクする毎日でした。

好きなことについて生き生きと目を輝かせながら話す人たちの姿に刺激され、物事の見方や考え方が柔軟に変化すると共に、私自身の大切にしたい価値観が引き出されました。出会は数珠つなぎのようにどんどん広がっていきます。ゲストハウスでいただいたご縁は今なお広がりが続けており、私の人生に大きな影響を与えています。この経験から、私は「出会は人生を豊かにする」と確信しています。

出会いは、人との出会いだけに限りません。自分の好きなものやこと、場所、本や映画など、多岐にわたります。様々な人が行き交うまちなかは、出会いのチャンスに溢れています。あなたが何かをやってみたいと思ったとき、気軽にチャレンジできたり、一緒に取り組む人を見つけられたりする、そんな土壌をまちなかにつくりたい。ふくまちは、その一つのきっかけになることを願っています。さあ、あなたもまちなかに出かけて、共に学んでみませんか？

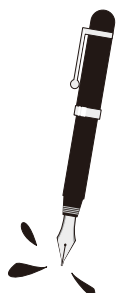
### 講師略歴……土田 佳奈(つちだ かな)

福井県福井市生まれ。大学時代に海外を訪れた際、自分のまちなことを語れなかった経験から、まちづくり活動をスタート。まち歩き・まちづくりサミット等の企画運営や、まちなかのゲストハウススタッフを経験する中で、個人の「好き」や「幸せ」を起点としたまちづくりの重要性を実感する。

ふくまちは大学では講座の企画運営や講師を務め、人となりが自分を表現できる「居場所と舞台」づくりをサポート。自然や地球にも親しみ深く、現在は福井市安居地区を拠点に、心豊かな未来を目指して「自然のリズムを感じる、土をたのしむ暮らし」を実践・提案している。

# 感想文のコーナー

このコーナーは、受講生の皆様から寄せられた感想文を紹介いたします。紙面の都合上、すべての感想文を紹介できないことをご容赦ください。



## ■二月五日放送（第四十四回）

どんなときでも図書館を

宮川 陽子 先生の感想文より

▼西尾 桂子（百七十七番）  
図書館は大好きな場所だ。仕事を辞めて暇な時間が出来たとき、嬉しくて一日中図書館で過ごしたこともある。本に囲まれているのは、何と楽しいことだろう。

本は自分で探したり、検索したり、閉架図書の見覧をお願いしたりするが、うろ覚えの書名で尋ねたことはない。そんなことは司書の方に失礼だと思っていた。しかし、県立図書館のサイトをもとにした「覚え違いタイトル集」という本が刊行されるほど、覚え違いの書名は多いらしい。気軽に質問すればいいのだと思う。

「分からなければとことん調べる」という例のお話の中で、「えんぴつ」と「まんねんひつ」の違いを問うお話には感動した（「えんぴつ」のように熟語としての結びつきが強いものは「ひ」が半濁音化するとのこと）。言語学の講義のようだ。また、大活字本や録音図書の存在も有り難く、「読書バリアフリー法」という法律の存在を知った。

県立図書館二十周年記念の企画には友達と参加し、一月

には映画（舟を編む）を、そして昨日はライブラリーコーナーを堪能した。素晴らしい企画であった。

## ▼村寄 百合子（二十八番）

図書館は本を貸し出すだけかと思っていましたら、「レファレンスサービス」というのがあり、題名がわからない本まで丁寧に探してくださると聞いて驚きました。また、大きな文字で印刷された大活字本や録音図書もあるとのこと。私は何回か本を借りに行ったことがありますが、あまり利用はしてきませんでした。二人の娘は月一回図書館へ行き読みたい本や新しい本と出会い、次はあの本を借りるといった楽しみがあると聞いていました。図書館ではそういった楽しみができていいなあと思います。

図書館のいろんな利用法を教えてくださいました。楽しそうでも分かる所だと思いました。ありがとうございました。また。



## ■二月十二日放送 (第四十五回)

雨水を貯めて日常で活かす事が普通の社会に

笠井 利浩 先生の感想文より

## ▼大下 敏雄 (二百二十九番)

昔、橋幸夫さんが「♪雨が小粒の真珠なら〜」と歌っていました。最新の映像技術の超高度度カメラのスロー映像を見ていると雨粒がまさに宝石のように見えるから凄いなと思いました。そこに写る雨粒は綺麗そのもの。

先生は雨の中に含まれる物質はキレイ、キタナイ両方が正解だとおっしゃいます。初期雨水を除くとキレイ、「流せば洪水、貯めれば資源」街中にタンクを設けて雨水を資源として利用することが今後重要になってくるとも。

世界銀行の元副総裁、イスマル・セラゲルディン氏は「20世紀は石油紛争の時代だったが、21世紀は水紛争の時代になる」と言っていました。10日に1回くなられた、バート・バカラックさんを偲んで「雨にぬれても」を聴きながら「雨水活用」の未来を考えたい。

## ▼竹内 多美子 (四十番)

以前、雨水は酸性雨と言われ雨に直接当たらないよう忠告があったように覚えています。従って雨水を飲用するなご全く考えられませんでした。しかし、笠井先生は雨水の成分を調査し初期雨水を除くと飲用に可能と診断され、浄

化することにより、水道水以上の水質と見極められました。そして、「あまみずドリンク」の製造と販売にこぎ付けられました。何とすばらしい執念の快挙と称えたいです。

先生は雨水の活用を真剣に考えておられます。雨水も「流せば洪水、貯めれば資源」と貯水タンクを設置して雨の水資源化に向けて活動しておられます。

各家庭の屋根に降った雨をタンクに貯めることは出来そうです。さらに飲用に活用できれば有意義な取り組みとなるでしょう。これからのご活躍に期待しております。

## ■二月十九日放送 (第四十六回)

川柳入門

巽 俊一 先生の感想文より

## ▼安野 淑子 (七十番)

新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミに川柳が多く取り上げられ、今はブームになっていると思われます。本日の講座で私も作りたくなりました。五七五の中に自分も思いを入れる文芸作品であるという言葉に惹かれました。高齢になると長い文章を書くのには抵抗がありますが、五七五ならば一句作れそうです。何かに挑戦するときはアンテナを張って脳も働き認知症の予防になるのではないかと思います。よいお話が聞けてよかったです。

## ▼安野 淑子(七十番)

今日のテーマは川柳の作り方。本嫌いの私にとっても良く分かるように話してください嬉しかったです。

川柳についての決まり事、とても良く分かりました。俳句の先生は「川柳を詠むな」と言われますが、俳句が上手になってから川柳というわけにはいかず、つい季語なしでも残しておきたい句が出来たらそれでいいと思っています。しかし川柳にも決め事があります。それを守って残り少ない人生、五七五に託して句を作って行きたいです。自分でふふと笑える、納得できる句を詠んでいきたいと思えます。人生100歳時代ですからね。

## ■二月二十六日放送(第四十七回)

災害時の避難について考える

～3・11を前に～

朝田 和枝 先生の感想文より

## ▼福岡 隆夫(二百二十八番)

「災害は忘れた頃にやってくる」そして「災害の先触れ無し」と昔から言われている。

避難行動要支援者名簿、個別避難計画なる言葉を知った。これまで、町内の高齢者等の情報は町内会長にその都度報告はしているが……。

講座を聴いて、多くの場合正常性バイアスが働いてしまい、避難災害が発生してしまうことが分かった。たしかに

自分の周囲にはこれまでに災害は起きていない、自分は大丈夫、この地域は災害に強いなど思っている。前例がない、今回は大丈夫、まだ大丈夫等、自分は大丈夫という考えは改めなければならぬことだ。

我が家の避難袋には、食べ物や飲み物が以前入れ替えしようとしたままで、補充していないことが今回判明した。避難指示、避難勧告が伝わらない、危険と思わない、避難したくてもできない、わからないといったことがないように今一度確認しておきたい。

## ▼藤沢 静子(百六十四番)

トルコ大地震から三週間、報道で地震後の街の様子を見ると何とも言えない悲しみに襲われます。また、避難所での被災者の生活を思うと何とも言えない思いにかられます。

日本でもここ最近あちこちで地震が多発しています。昨年は豪雨被害もありました。先生から、災害時の避難について考えることが今とても大切なことで、地域でも避難訓練を重ねることが、逃げ遅れ防止に繋がるので教えていただきました。「空振りを恐れず、早めの避難」「隣近所声かけあってみんなで避難」肝に銘じたいと思いました。

文芸欄

俳句

助手席に置かれたままの春日傘  
藤の花風を待つての自己主張

江守 和子(二百二十二番)

何事も人のなす業桜咲く  
のびる芽をつみし戦をこらむ春

小山 美令(二百四十二番)

タラ芽吹く明日は制服買いに行く  
「たけくらべ」枝垂れ桜は吾に笑む

増田 寛子(二百四十六番)

川柳

雪搔いて民生委員さん「こんにははー」  
外燈に照らされ吹雪絵画なみ

谷川 好枝(四番)



脱下請け横請け志向町工場  
町工場女性社長の発想で

山下 博(七十四番)

食事です呼ばれる前に晩酌を  
おじいちゃん気をつけてねと孫出掛け

森忠 陽子(二百三十一番)

セミナーで詠みたくなる初川柳

藤沢 静子(百六十四番)

朝寝してすぐ夜がきて布団敷く

杉下 信夫(八十八番)

短歌

一週間降り積もりたる雪解けて

今年も無事に春を迎える

戦場に赴く兵士は抱き上げた

幼子にぶたれてうるうるしていた

杉下 信夫(八十八番)

発行所 (福)福井県社会福祉協議会

〒910-1852 福井市光陽 1-3-11

電話 0776-241433  
FAX 0776-240041